

## □大学教育再生加速プログラム

(Acceleration Program for University Education Rebuilding ; A P)

「大学教育再生加速プログラム」は、平成26年度に文部科学省にて新設された事業で、大学教育改革の方向性に合致した先進的な取り組みを重点的に国が支援することにより、改革を加速させるプログラムです。 本学は、テーマII「学修成果の可視化」に採択され、**H31年度に事業の最終年度を迎えようとしています。**



## ■2018年度 第1回APワークショップの開催

今年度第1回APワークショップを、9月18日(火)に開催しました。本学のアセスメントポリシー及び成績評価基準の確認の他、これまでのワークショップで取り上げてきた「基礎学力」及び「人間力」の育成に関する授業での取り組みや工夫点を共有し、学生の「学ぶモチベーションを上げる仕組み」作りについて教職員で意見交換しました。

大学4年間で学ぶ基礎教育科目や専門科目全般に渡り、社会で必要となる能力を、どのように取り組み、学生に定着させるか、教員のみでなく、職員も交えて活発な議論となりました。



<テーマ>  
**カリキュラムのアセスメント設計ワークショップ**  
 ～アセスメントポリシー・成績評価基準の確認と  
 人間力・基礎学力の育成スキームの点検～  
 <ファシリテーター>  
 株式会社ハウインターナショナル 取締役 桑木康宏 様  
 現：学びと成長しくみデザイン研究所

## ■2018年度 第2回APワークショップの開催

今年度第2回目となるAPワークショップを12月19日(水)に開催しました。

本学でのアセスメントポリシーの全体設計を再確認したうえで、シラバスが、カリキュラム全体や科目間連携を意識したものになっているかの検討を行いました。さらに、前回のワークショップで議論した「基礎学力」及び「人間力」に関する調査結果を踏まえ、カリキュラムマップの分析結果のフィードバックや科目間連携について検討しました。

今回のワークショップを踏まえ、教学PDCAサイクルをこれまで以上に機能させていきたいと思っております。



<テーマ>  
**カリキュラムの作戦とシラバス記載内容の点検**  
 ～学科がチームとして学生を育てあげるために～  
 <ファシリテーター>  
 株式会社ハウインターナショナル 取締役 桑木康宏 様  
 現：学びと成長しくみデザイン研究所

## ■対話型企業技術・要素会の開催



11月21日(水)に本学講堂において、「対話型企業技術・要素会」を開催し、学部1年生から3年生と大学院博士前期課程1年生の約300人が参加しました。

当日は、新潟県内企業を中心に44社から参加いただき、製品やパネル等を用いて、自社の技術や社員として求められるスキル等について説明いただきました。

AP事業の一環として実施しており、1年生、2年生にとっては、これから専門的な学びを深めていく上で、社会・企業で活躍するために、どういった専門科目・演習を受けていかないとけないのかといった、学びの動機づけや学ぶ意義を確認する機会として、また3年生にとっては、就職活動を目前とした、学びの再確認の場となりました。

今後は、ヒアリングした結果に基づき、これまでの自己の学修成果を振り返り、以後の学修計画やキャリアプランを策定していきます。

## ■PROGテスト実施

12月19日(水)にPROGテストを実施しました。

PROGとは、社会に出たとき役立つ力となる「リテラシー(問題解決力、言語・非言語処理能力)」と「コンピテンシー(対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力)」を測るものです。若手社員の育成は企業にとっても大きな課題であり、採用の場面でも大学の学業成績に加え、面接での評価が重視されています。これは日本の企業がジェネリックスキル(汎用的に役立つ能力・態度・志向)を重視した採用方式を取っていることの表れで、「ポテンシャル採用」とも呼ばれています。

本学ではこれまで、3年次のみでジェネリックスキルを測定しておりましたが、今年度より1年次からPROGテストを実施することによりジェネリックスキルの成長曲線がとれるようになりました。学生にとっては、大学の学びや様々な体験の中で、ジェネリックスキルをどうのばせたのかを実感できるとともに、就職活動でも自己アピールがし易くなる等で役に立ちます。

### ■そして一言(荒川 卓 学務課 助教/APコーディネーター)



6年計画のAP事業も残すところ来年度のみとなりました。これまで取り組んできた学生、教学PDCAサイクルをこれまで以上に機能させ運用することが、必要になると思います。

そのため、教職員で連携し学生の学びにとって何が必要なか、またいらぬのかを考えていくことが今後求められると感じております。採択から5年目を迎えた今年度は、採択テーマである「学修成果の可視化」に向けて、アセスメント・ポリシーの確立及び運用を目指すべく取り組んでおります。